

世田谷区文化財保存活用基本方針【概要版】

1 策定の主旨

地域の文化財・自然等の保護・継承に関する施策を一貫した考えをもって進めるためには、基本方針を示すことが必要となる。施策を通じ、地域住民等による文化財等への理解、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機として、世田谷の歴史文化の魅力発信につなげていく。

2 基本方針策定の概要

(1) (仮称) 世田谷区文化財保存活用基本方針の位置づけ

基本方針策定にあたっては世田谷区基本計画や世田谷区新実施計画、第2次教育ビジョンなどとの整合を図り、歴史文化基本構想として位置づけることとする。



(2) (仮称) 世田谷区文化財保存活用基本方針の期間

平成29年度を初年度とし、平成38年度までのおおむね10年間を見据えたものとする。期間内においては、本基本方針の検証を定期的に行うとともに、必要に応じて内容の見直しを検討し、様々な社会情勢の変化等に対応した施策展開を図る。

3 世田谷区の文化財施策の課題

(1) 世田谷区の文化財を取り巻く環境の変化

- 社会経済状況の変化に伴い、多くの文化財が失われつつある
- かつての世田谷の姿を思い起こさせる資料や環境が少なくなっている
- 少子高齢化の進展などにより、郷土の歴史や文化を次世代へ継承していくことが困難になっている

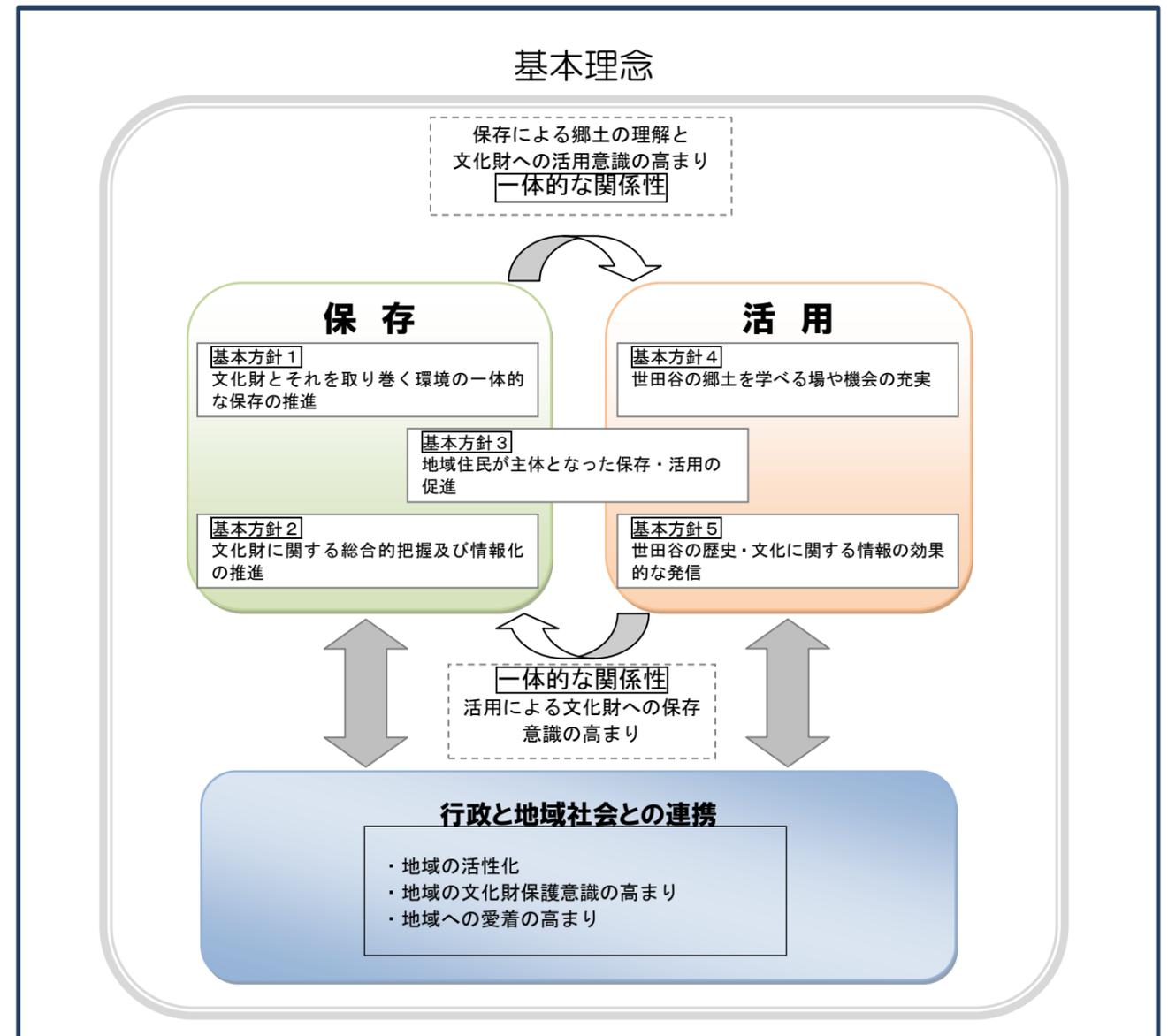
(2) 文化財施策の課題整理

- 課題1 文化財とそれを取り巻く環境の保存
- 課題2 郷土資料館を核とした郷土学習ネットワークの充実
- 課題3 民家園の事業の充実と次大夫堀公園民家園の再整備
- 課題4 代官屋敷の保存・活用の推進
- 課題5 地域の文化財の継承と伝統文化の担い手の育成
- 課題6 世田谷の歴史・文化の魅力を広く伝えるための情報発信
- 課題7 新しい区史編さんに向けた取り組み
- 課題8 文化財の保存活用のための体制の整備

4 文化財保存・活用の基本理念の考え方

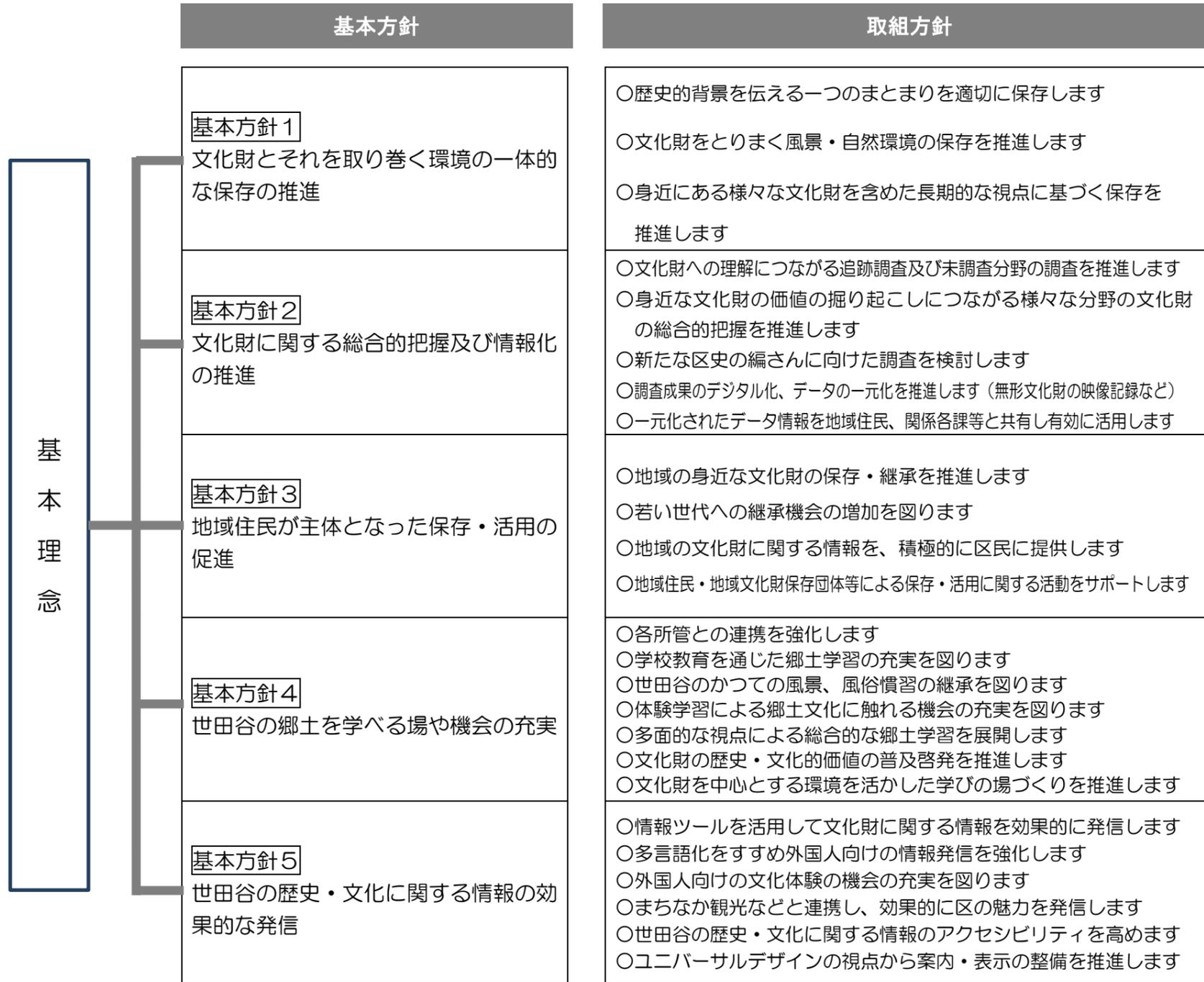
- 文化財やそれを取りまく環境が失われることのないよう、幅広い視点で把握し、適切な保存を行うことを目指す。
- 郷土「せたがや」を次世代へ継承していくため、地域の歴史や文化を学び、暮らしの中で活用しながら、地域の手で守り伝えていくことを目指す。
- 保存は郷土の理解と、文化財への活用意識の高まりにつながり、活用は文化財への保存意識の高まりを生み出す。保存と活用が表裏一体となるよう、相互に関係性をもった施策展開を目指す。
- 保存及び活用の取組みを支えるため、行政と地域社会との連携による体制づくりを目指す。

■基本理念の関係性イメージ



5 文化財保存・活用の基本方針について

■基本方針の体系図



7 文化財保存・活用の体制整備

- | | |
|-------------------------|------------------|
| ○専門職員の知識・経験を活かした保存体制の整備 | ○継続的な専門職員の育成 |
| ○庁内の関係所管との連携強化 | ○郷土学習のための教育環境の整備 |
| ○専門的知識の蓄積のための研究機関との連携 | |

6 重点取り組み

(1) (仮称) 世田谷デジタルミュージアムの構築

- 郷土学習ネットワークの構築を通じた情報一元化を図ります
- 学校教育のサポートに役立てます
- 区の魅力発信の充実を図ります
- 多言語化に対応します
- 身近にある様々な文化財について積極的に情報発信します

(2) 民家園の機能の再検討と事業の充実

- 次大夫堀公園周辺の歴史・文化に関する事業の充実を図ります
- 次大夫公園民家園の施設の再整備を検討します

(3) 地域の文化財保護の担い手の育成

- 文化財に関するボランティアを配置・育成します
- 地域の文化財保護の担い手を育成します

(4) 新たな区史編さんに向けた調査・研究の推進

- 区の歴史文化の調査・研究を推進します
- 未調査分野の調査を推進します
- 追跡調査の実施を検討します
- 調査結果のデジタル化、データ一元化を推進します

(5) せたがや歴史文化物語の取り組みの推進

《世田谷の歴史・文化を語る文化財群のモデルイメージ》

- ①次大夫堀公園周辺の農村風景と民俗文化財
- ②せたがやの中世・近世の歴史をたどる
- ③多摩川流域の古墳群
- ④住宅街として発展してきた世田谷の近代遺産
- ⑤国分寺崖線の自然と文化財
- ⑥烏山寺町と武蔵野のおもかげ